

競技力向上、健康増進 社会に還元

「健康・スポーツ教育研究センター」発足に寄せて

本年度発足した健康・スポーツ教育研究センター。今月13日にはアリーナ内に様々なトレーニング機器を設置したアスリートゾーンとフィットネスゾーンがオープンします。これを機に、センターの目的や概要について、松原誠仁副センター長に寄稿してもらいました。



松原 誠仁・
副センター長

健康・スポーツ教育研究センター（以下、センター）は、「知識・技術・思慮・仁愛」の四綱領に基づくメディカルスタッフ養成の基盤を支えるため、健康とスポーツをキーワードにした社会的要請の高い調査・研究・教育を積極的に推進するために設立されました。

センターでは、この目的を達成するために、以下のような課題を設定します。

1. 競技者のみならず、子供、一般健康成人及び高齢者までを対象に、社会的要請の高い還元型の研究開発を積極的に行います。
2. オリンピック、パラリンピックなどの世界大会で活躍が期待される競技者に対し、競技力向上や障害予防のために課題解決をサポートし、競技力向上に寄与します。
3. 熊本県のオリンピックや世界大会で活躍が期待される育成指定競技者に対し、その競技力向上や障害予防のための課題解決をサポートします。その他、タレント発掘や総合型地域スポーツクラブの活性化に積極的に取り組みます。
4. 球磨郡水上村スカイヴィレッジを中心に行われるスポーツ合宿の効果を最大化するための方法を提案し、地方創生に関する新たなエコシステムの考案に取り組みます。
5. 産官学連携による健康増進やスポーツに関する問題解決に取り組み、新たなイノベーションの創出に取り組みます。

また、アリーナ内に高度な計測機器とトレ

ニング機器を導入したアスリートゾーンと一般のトレーニング機器を導入したフィットネスゾーンを設置し、健康・スポーツ領域の研究及び実践の拠点として積極的に活用します。

経験豊かなそして情熱溢れる教職員が一丸となって取り組んで参りますので、よろしくお願い申し上げます。



アリーナ内に設けられたフィットネスゾーン。さまざまなトレーニング機器が据えられています。

特命副学長に古閑氏（前熊本県教育長）就任



本学の特命副学長に前熊本県教育長の古閑陽一氏＝写真＝が6月1日付で就任しました。古閑特命副学長は1982年に熊本県庁入庁。総務部政策審議監、健康福祉部長などを歴任した後、2019年から熊本県教育長を務め、今年4月に任期満了のため退任しました。特命副学長就任にあたり、古閑氏は「教育、保健医療分野での経験を活かし、リ

ディング大学の実現に向けて皆様と共に取り組んで参ります」と、意気込みを語りました。

このほか、同日付で平川文文学務課長が就職・実習支援課長に、久保田憲寿就職・実習支援課長が入試・広報課長に、小村泰助入試・広報課長が学務課長にそれぞれ異動になりました。

（安部悠介）



キャンパスツアー、学生生活相談会.....

ピア・サポーター 活動スタート

新年度の始まりと共にピア・サポーター123名の活動が始動しました。これまでに、4月は新入生オリエンテーションでのアイスブレイクやキャンパスツアー、健康診断誘導、履修登録相談会、5月は学生生活に関する相談会等の活動を行いました。

また、5月16、17日には、1年生を対象に「プチ・サポーター説明会」を開催し、

80名の登録希望者が集まりました。登録申込書に書かれた志望動機には、「高校生のときに参加したオープンキャンパスでピア・サポーターが丁寧に対応してくれた」「入学直後で緊張していたときに優しく声をかけてくれた」「履修登録相談会で詳しく教えてくれた」「今度は自分が誰かの役に立ちたい!」という内容が多く見られました。これ

までの活動が、そのように受け止められていることは、ピア・サポーターたちにとって大きな励みになることでしょう。

今後も養成講座で共に学び、交流を深め、ピア・サポート活動を盛り上げてほしいと思います。(学生相談・修学サポートセンター)

「GENERATION」

鬼塚 萌愛部長

(医学検査学科2年)

活動
報告



買い物客に子宮頸がん検診呼びかけ

私たちボランティアサークル「GENERATION」は、「子宮の日」の5日、菊池郡菊陽町のゆめタウン光の森店で開かれた子宮頸がん検診啓発活動に参加しました。活動にあたっては、前もってクラブメンバーの2年生で啓発用チラシや生理用品を袋詰めする作業をし、配布用に約500セット用意しました。

当日は先生方の協力も得て、3箇所にわかれて配布活動を行いました。「子宮がん検診のご案内です。よかったらどうぞ」と声掛けをしながら配布をすると、「ありがとう」とおっしゃって受け取って下さる方が多く、1時間もたわずに全て配りきることが出来ました。

子宮頸がんの国内の年間罹患数は約1万1000例、年間死亡者数は約2,900名と言われています。罹患年齢の若年化が進む中で、全世代の検診受診率は欧米諸国の70~80%に比べ、日本は42%程度と低い実態があります。20代から30代の女性においては、罹患率はすべてのがんの中で第1位です。

このような活動は、多くの方々に子宮頸がんについて知ってもらえる機会になります。検診に行くことで、がんになる前に発見が可能になります。これからも私たちは多くの人に知ってもらえるような活動をしていきます。

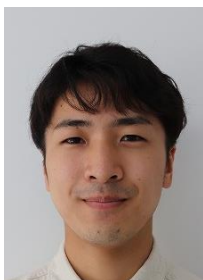
写真上、右とも、買い物客に検診を
呼びかけるメンバーたち



コロナ禍も より多くの活動企画

松山 直央・学友会新会長
(リハビリテーション学科 理学療法学専攻3年)

本年度の学友会会長になりましたリハビリテーション学科 理学療法学専攻3年の松山直央です。昨年度は副会長として学友会活動に参加しておりましたが、かなり活動が制限された1年間でした。



本年度の学友会は、過去の活動内容にとられず、コロナ禍に合わせた活動を企画し、可能な限り多くの活動に取り組むことを目標とさせていただきます。自粛を余儀なくされる活動につきましても、先輩方か

ら受け継いできた歴史や伝統を失わないよう、来年度の運営部へ繋がるよう引き継いでいきます。

学友会のメンバーは例年学科や学年を超えて仲が良いです。これを維持するためにも、皆に活動の場を提供できるよう尽力していきます。いつでも楽しむことを忘れず、積極的な姿勢で参加していただければと思います。

本学がより一層良いものになるよう責任をもって学友会を引っ張っていきますので、ぜひお力添えのほどよろしくお願いいたします。

銀杏アラカルト

◆保護者とともに長期実習支える 看護学科3年生を対象とした保護者会を5月16～30日に開催しました。現在実施中の学外実習をより有意義なものにするため、保護者と教職員が連携するのが目的です。昨年に続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、

オンデマンド形式での開催となりました。学長による大学概要や新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組み説明、各学科・専攻による学外実習、就職、国家試験に関する説明などを特別サイトを設けて閲覧できるよう配信しました。対面実施はかないませんでし

たが、より多くの保護者の方に情報を提供できたのではないかと思います。学生たちは長期にわたる実習を通し、様々な思いや悩みを抱えています。少しでも不安をやわらげられるよう支援していきたいと思います。

(就職・実習支援課)

インフォメーション

週間行事予定 (6月11日～17日)

6 / 17 (金)

高校等進路指導者向け進学説明会